

9月の輸出は半導体不足が足枷に

政策・経済研究部 エコノミスト 前田 和孝

1. 輸出の伸びは4ヵ月連続で鈍化

財務省から発表された9月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+13.0%となり、市場予想(同+10.5%)は上回ったものの、4ヵ月連続で伸びが鈍化した(図表1)。コロナ禍の影響を除去するため、2年前の2019年9月対比で見ても+7.4%と、8月の同+7.6%からプラス幅が縮小しており、増勢は頭打ちとなっている(図表2)。

季節調整済前月比では▲3.9%となり、2ヵ月ぶりにマイナスとなった(図表3)。世界的な半導体不足の長期化に伴い、自動車を中心とする輸送用機器が落ち込んだことが主因である。

2. 欧米向けは2年前比マイナス圏で推移

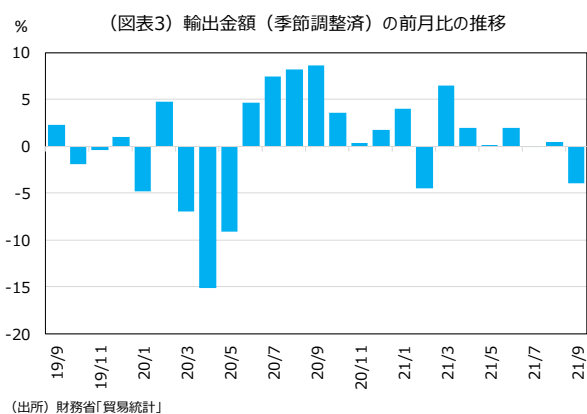
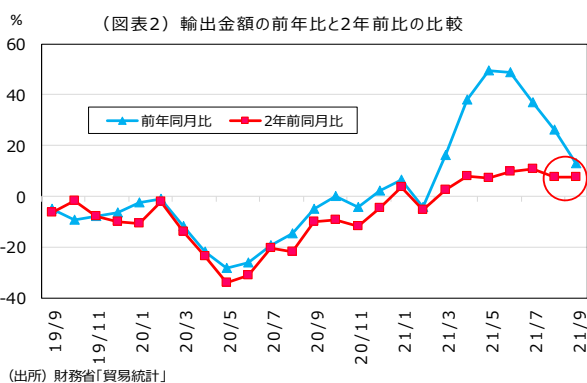
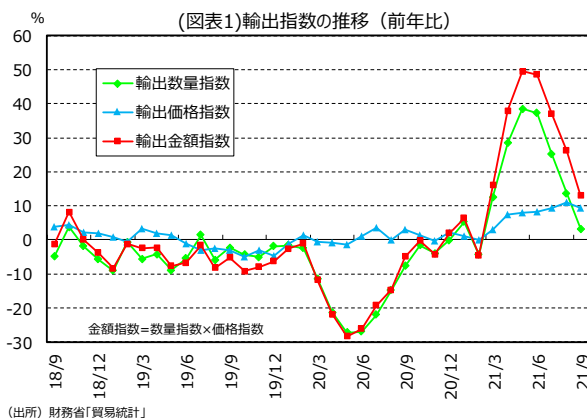
輸出の実勢を示す輸出数量の伸びを主要相手国・地域別に2年前比で見ると、米国向けが▲15.4%(8月:同▲9.5%)、EU向けが同▲9.0%(8月:同▲5.6%)、中国向けが同+19.6%(8月:同+14.1%)と、中国向けの伸びが前月を上回った一方、米国、EU向けのマイナス幅が拡大した(図表4)。米国、EU向けは、長らくマイナス圏にとどまっており、コロナによる落ち込みをなかなか取り戻せない状態が続いている。

もともと、中国向けもここ数ヵ月は均せば横ばい圏での推移が続いている。中国向けは2021年前半にかけて、コロナからの反動増的な需要増局面で大きな伸びを示していた。ただ、足元の中国景気はピークアウトしつつある。少なくとも、今後中国向けがプラス幅を拡大させていく展開は期待しにくい。

3. 輸送用機器の落ち込みが響く

国別と品目別の詳細なデータが取得可能な金額ベースで2年前比を見ると、米国向けは、構成比で26%を占める輸送用機器が▲30.9%(8月:同▲16.2%)、27%を占める一般機械が同+13.4%(8月:同+0.6%)、16%を占める電気機器が同+7.6%(8月:同+8.1%)と、輸送用機器のマイナス幅が大きく拡大した(図表5)。

EU向けを見ると、構成比で16%を占める輸送用機器が同▲49.8%(8月:同▲34.7%)、24%を占める一般機



械が同▲3.8%（8月：同▲3.1%）、20%を占める電気機器が同▲1.0%（8月：同▲2.2%）と、こちらも輸送用機器のマイナスが突出して大きい（図表6）。輸送用機器の内訳である自動車は同▲66.9%（8月：同▲52.0%）と、7割近い落ち込みとなっている。

中国向けは、構成比で6%を占める輸送用機器が同▲30.4%（8月：同+12.2%）、22%を占める一般機械が同+32.9%（8月：同+12.0%）、24%を占める電気機器が同+31.6%（8月：同+21.4%）となった（図表7）。一般機械や電気機器が前月の伸びを上回る一方で、輸送用機器はマイナスに転じた。内訳の自動車は同▲62.4%（8月：同+14.6%）と、2018年6月以来のマイナス転換となった。

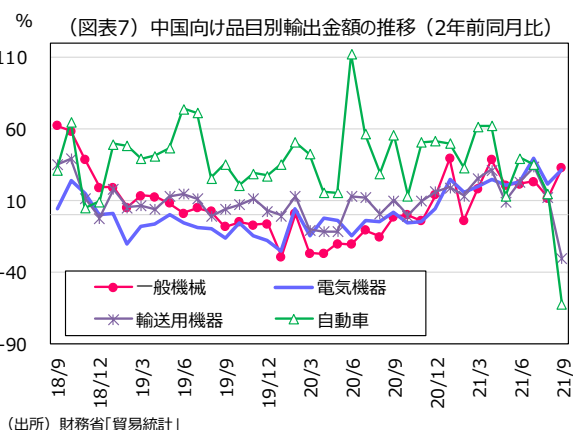
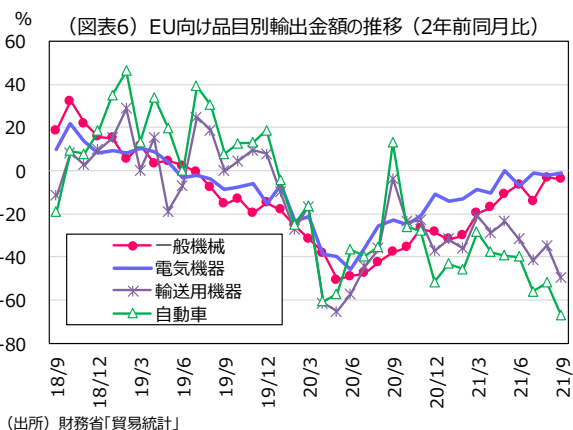
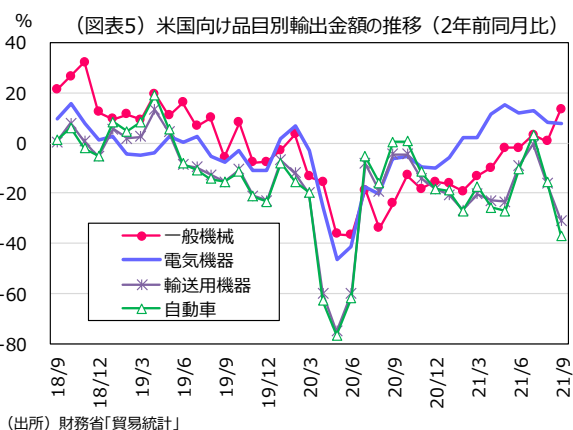
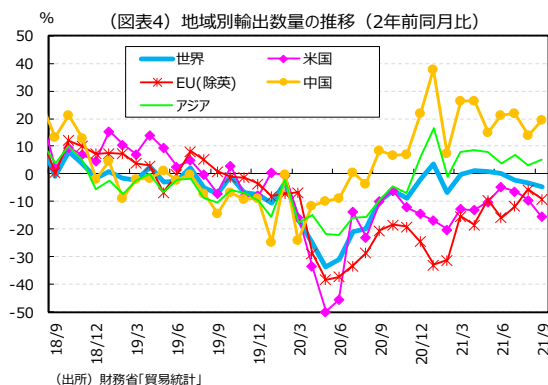
半導体不足により世界の自動車生産は総じて軟調な推移が続いている。半導体需給は依然としてタイトで、国内の大手自動車メーカーも減産や工場の稼働停止を発表している。輸出にもこの影響が如実に現れてきており、回復を阻害する要因となっている。

4. 半導体不足が引き続き輸出の抑制要因に

緊急事態宣言の長期化により、7-9月期の実質GDP成長率は小幅のプラスにとどまる可能性が有力である。もっとも、19都道府県に発令されていた緊急事態宣言は9月30日をもって解除された。個人消費のペントアップディマンド（繰越需要）は相応に蓄積されているとみられ、10-12月期は反動増が見込まれる。また、衆議院選挙の後には経済対策が打ち出され、景気を下支えすることが予想される。

一方で、足元で中国景気の回復ペースが鈍化していることに加え、欧米でもエネルギー価格の上昇や供給制約もあってインフレ率が上昇しており、景気の下押し圧力が高まりつつある。そのため、欧米向けの輸出が、中国向けの減速分を補うほどの回復をみせるかどうかは現状では見通しにくい。

世界的な半導体不足も当初想定されていた以上に長引いており、現状では解消の兆しが見えていない。これまで堅調に推移していたGDPベースの実質輸出も伸びが鈍化すると予想される。



※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411